
所 属 : 広島平和研究所
職・氏名 : 准教授 徐 顕芬
U R L :

研究キーワード : 日中関係、安全保障共同体、対外援助

■研究テーマ

① 日中関係の制度化

日中関係は近くて遠いものです。日中両国の地理的な距離は近いですが、両国間の相互理解は、まだ非常に不足しています。1949年の中華人民共和国建国以来、日中両国間において、政府レベルから民間レベルまで、どのようなメカニズム、交流のチャンネルが存在し、どのような論理で関係が作られてきたので、史的に丁寧に分析します。

② 東アジア安全保障共同体構築の可能性

中国の国際社会との関わりかた、中国の多国間主義の分析を通じて、東アジア安全保障共同体構築の可能性を探ります。

■研究テーマの応用例

日中間の相互理解を促進する場面において、日中関係の史的研究の成果からヒントを得て、活動（イベント）のスムーズな運営に一助することができればと思います。

また、日本の対外援助、中国の対外援助への理解にすこし役立てるかと思います。

■主な著書、発表論文

徐顕芬『日本の対中 ODA 外交：利益・パワー・価値のダイナミズム』勁草書房、2011 年。

松村史紀・森川裕二・徐顕芬編著『東アジアにおける二つの「戦後」』国際書院、2012 年。

徐顕芬「一九七〇年代の対ベトナム援助をめぐる日米中の対応」菅英輝編著『冷戦変容と歴史認識』晃洋書房、2017 年、111-138 頁。

徐顕芬「日中両国の対外援助規範の比較」兪敏浩・今野茂充編著『東アジアのなかの日本と中国：規範・外交・地域秩序』晃洋書房、2016 年、97-121 頁。

徐顕芬「克服すべき一九七二年体制」高原明生・菱田雅晴・村田雄二郎・毛里和子編『日中関係 なにが問題か：1972 年体制の再検証』岩波書店、2014 年、73-78 頁。

■主な特許、芸術作品等

特に無し

■想定される連携先

地域団体

地方自治体

公的研究機関

教育機関